

日本側拠点機関名	東京大学
日本側コーディネーター所属・氏名	東京大学新領域創成科学研究科・味埜俊
研究交流課題名	サステナビリティ課題の解決に向けた社会デザイン研究の拠点形成
相手国及び拠点機関名	南アフリカ：ケープタウン大学・フリーステート大学 ケニア：ナイロビ大学ワンガリマータイ平和環境研究所 マレーシア：マレーシアサインズ大学 タイ：チュラーロンコーン大学

研究交流計画の目標・概要

【研究交流目標】交流期間（最長3年間）を通じての目標を記入してください。実施計画の基本となります。

本事業は、アジア・アフリカにおけるサステナビリティ課題の解決にむけた社会デザイン研究の拠点形成を目標とする。気候変動や急激な都市化など、社会の存続を脅かすサステナビリティ課題は、環境、経済、社会文化など、多くの側面に複雑に絡み合って存在し、その解決のためには技術的アプローチだけでは不十分である。本事業の軸となる社会デザインとは、望ましい社会の実現に向けて、多様なアクターが課題の特定と分析、解決策の検討と実施、及びその過程の評価を連携しながら進めていくための仕組みと場づくりを意味する。背景や専門性の異なるアクターの連携の必要性はこれまでも言及されてきたが、その具体的な枠組みと事例研究は少ない。特に多様なアクター間のファシリテーションは、学際的領域であるサステナビリティ学に期待される役割である。

本事業での社会デザインは、研究・教育・社会実装が統合的に展開し、各要素からの知見集約を通じて持続可能な社会への転換を促す。これら三要素が同時展開することで、各分野からの継続的なフィードバックが生まれ、その結果として、プロセスの改善機能が発揮される。経済や社会制度、人々の価値観などが急激に変化し、同時に人口規模のために大きな環境負荷が予見されるアジア・アフリカの文脈においては、この改善機能が非常に重要となる。

広域なサステナビリティ課題のなかから、本事業では「農村都市連携」を、アジア・アフリカ共通の重要課題として位置づけ、研究・教育・社会実装の共同実施を軸とした社会デザインの研究拠点の構築に取り組む。具体的な研究課題としては、若年層の流出と高齢化、都市の過密化、主幹産業の衰退とコミュニティ活性化がある。今後更に都市化が急速に進んでいくアジア・アフリカでは、都市の住環境等に関する取り組みだけではなく、都市と農村間のつながりに焦点を当て、両地域の連携を通じた持続可能な発展の必要性が高い。本事業は交流期間に持続可能な農村都市連携のあり方を示す社会デザインの具体的な枠組みと事例を提示することを最終年度までの目標とする。

【研究交流計画の概要】①共同研究、②セミナー、③研究者交流を軸とし、研究交流計画の概要を記入してください。

①共同研究：社会デザインを用いたケーススタディ

本事業での方法論としての社会デザインは、研究・教育・社会実装の三要素から構成される。これに連動し、①個別のサステナビリティ課題に対する社会デザイン、②社会デザインを開発するプロセスを活用した教育、③提案された社会デザインを多様なアクターと共同実施する仕組み、に関する研究を実施する。アジア・アフリカにおいて農村から都市への若年層の移動とそれに伴った都市の過密化、農村での地域経済の低迷、人口の高齢化などが共通の課題として顕在化してきており、これらの課題について社会デザインを通じた解決策の提示を目指す。

②セミナー：研究・教育・社会実装の三要素を統合的に展開していく手法の確立

本事業では、持続可能な社会の実現にむけた社会デザインを研究・教育・社会実装を統合的に展開する。個別のサステナビリティ課題に関する事例研究と併に、サステナブルな社会への転換にむけ、これらの三要素をどのように効果的につなげていくかに関するセミナーを開催する。これらのセミナーの成果を取りまとめ、最終年度にはサステナビリティ学分野における社会デザインについての国際シンポジウムを開催し、成果発信を行う。

③研究者交流：若手研究者を中心としたフィールドワークと演習教育への相互乗り入れ

若手研究者を中心に、各国でのフィールドワークと演習教育への相互乗り入れを行い、研究交流を促進する。この際、東京大学サステナビリティ学プログラムの修了者ネットワークを活用し、学際的領域であるサステナビリティ学の視点からの共同研究と教育実践を担保する。本事業により生み出される研究者ネットワークを通じ、社会変化が急速なアジア・アフリカの文脈でのサステナビリティ課題の解決にむけた社会デザインの研究拠点を構築する。

[実施体制概念図] 本事業による経費支給期間（最長3年間）終了時までには構築する国際研究協力ネットワークの概念図を描いてください。

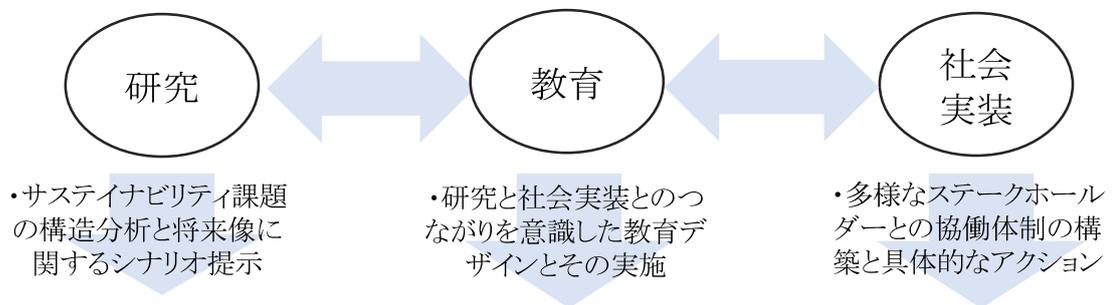
背景と申請者チームのこれまでの取り組み

- ・ サステナビリティ課題の拡大と技術と社会デザインの両方によるアプローチの必要性の高まり
- ・ 演習教育であるグローバル・フィールド演習(2012年より大学院プログラムの科目として実施)
- ・ 社会起業家と連携した社会デザインの開発と実践(2016年より高齢社会をテーマに取り組み)

本申請課題の目標

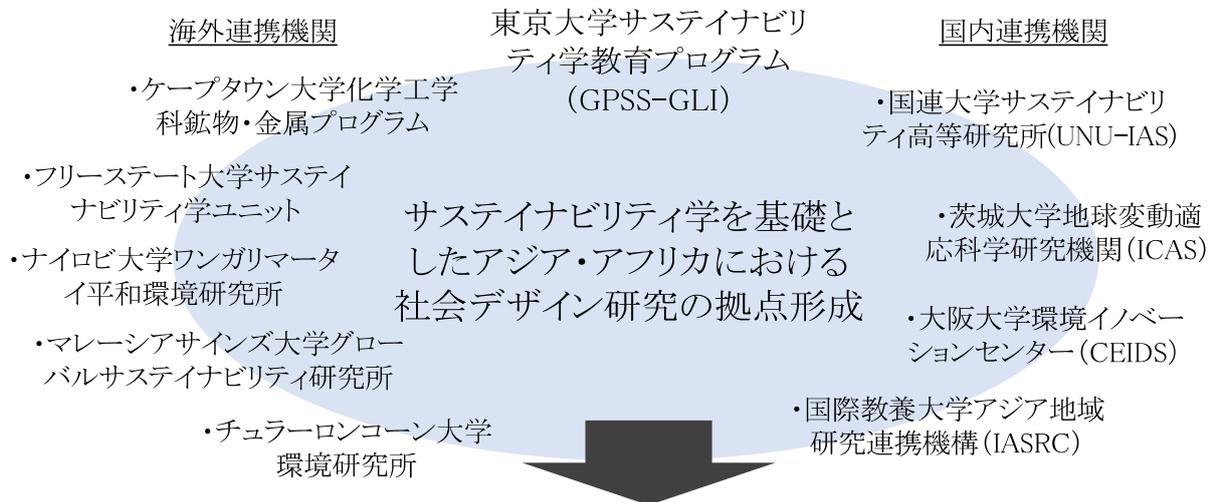
アジア・アフリカ地域において急速に拡大するサステナビリティ課題の解決に向けて、研究・教育・社会実装を統合的に展開する社会デザイン手法の研究拠点を形成する。

方法論: 研究・教育・社会実装が統合的に展開する社会デザイン手法



具体的な活動内容

- ・ 多様なサステナビリティ課題に対する社会デザインに関する共同研究セミナー
- ・ 若手研究者を中心としたフィールドワークへの相互乗り入れと社会デザイン・ワークショップ
- ・ 個別のサステナビリティ課題を題材としたフィールド演習コースの共同実施



期待される成果

- ・ 持続可能な社会の実現に貢献する方法論としての社会デザイン手法の確立とその実証研究
- ・ 個別のサステナビリティ課題を扱ったフィールド演習教育の枠組み構築とその実践
- ・ サステナビリティ学の国際シンポジウム開催
- ・ アジア・アフリカにおける社会デザイン研究の拠点形成とその継続的な運営体制の構築